

旭川医大 病院ニュース



(編集) 旭川医科大学病院
広報誌編集委員会委員長
廣川博之

<http://www.asahikawa-med.ac.jp/>

大学病院の臨床教育

病院長 石川 睦 男

大学病院の重要なミッションのひとつに教育があり、本院においても「大学病院としての使命を認識し、病める人の人権や生命の尊厳を重視した先進医療を行うとともに、次代を担う国際的にも活躍できる医療人を育成する」を基本理念に、優れた医療人の育成を最重要課題に掲げ、臨床教育を展開しています。

そこで今回は、本学が展開する卒前教育と卒後教育の概要について述べたいと思います

(卒前教育)

医学科では、入学後第1学年と第2学年の前期中「早期体験実習」として医療・保健・福祉関係施設の現場に exposure し、将来の医療人としての資質とあるべき姿を理解することから出発します。

第4学年の「医学チュートリアル」では、臨床上の諸課題について自学自習することで、臨床実習に必要な知識、技能及び態度を身に付けることを目的に、臨床系教員から指導を受けることとなります。

第5学年、第6学年では、「クリニカルクラークシップ(診療参加型臨床実習)」が本院や市内の医療機関において展開され、責任医師、指導医、医員及び研修医などシニアで構成する診療チームの一員としてチーム医療を経験するほか、コメディカルや院内の各種委員会のスタッフなどとの協同作業を通して、医療人に必要なコミュニケーション能力を養います。「クリニカルクラークシップ」では、チーム医療の理解と実践が極めて重要なテーマになっていますが、第6学年にはコア診療科の臨床実習アドバンスコースを提供し、ジュニア研修医としてより研修医に近い実習と専門性の高い選択実習が展開されます。学生諸君には、この実習がちょうど卒後臨床研修病院の選択や見学の時期と重なりますが、そのことにとらわれるあまり臨床実習がおろそかにならないよう期待しています。

(卒後教育)

卒後臨床研修における本院の初期研修プログラムは、研修医各人が目指す専門分野の興味の発展性に配慮し、道内多くの協力型臨床研修病院や臨床研修協力施設と連携し、希望する病院での研修を可能にしています。

本院では、研修スタッフとして臨床経験7年以上で専門医の資格を有する指導医を多数配置し、スタッフはチーム医療の中で、昼夜を分かたずこの研修が実りあるものになるよう熱心に努力しています。また、卒後臨床研修の内容は、研修医の方々のニ

ズを反映するよう常に見直しと改善が行われています。特に大学病院である本院では、教育・研修における豊富な人材と症例数を有し、研修医各人のニーズに対応した研修プログラムの作成を可能にしています。因みに、厚生労働省から提示されている「臨床研修病院の症例に係る考え方」においては、救急部門の取り扱い件数が年間10,000件以上の場合には十分な症例数とされ、5,000件未満の場合は研修医1人当たり500件以上あれば十分な症例数とされています。したがって、年間6,000件以上を取り扱っている本院は、必要要件を満たしていることとなります。また、同じく分娩件数においては、年間350件以上あれば十分な症例とされていますが、昨年度実績で320件の本院は、この要件もほぼ満たしています。このような中で、多数の研修医が殺到している研修病院やそこで研修している研修医は、研修内容に大きく関わる症例数をどのように位置づけているのであろうか。少なくとも研修医の人数と症例数のバランスが十分保たれ、かつ柔軟に対応できる研修プログラムを提供できる本院に、多くの研修医が参集してくれることを期待しています。

(詳細は、<http://www.jimu.asahikawa-med.ac.jp/shomu/sotsugo/>参照)

また、本院では、後期臨床研修及び専門医養成においても救急医療から各診療科における専門性の高い高度先進医療まで幅広い医療を提供しており、専門研修に必要な要件を十分に満たしています。これからは、従来にも増して専門研修の重要性が問われ、専門医・認定医の試験がより厳しくなることが予想されていますが、本院ではほとんどの専門医の取得が可能となっています。専門医に必要な症例数の確保のほかにも、地域医療機関の第一線の医師として様々な医療環境の下で診療を実践し、大学病院と地域医療機関の双方において研鑽を積むローテーション方式が整備されています。

社会人教育では、医師、看護師など医療従事者に対する多様な生涯学習プログラムを用意し、職員のみならず地域の医療人にも広く開放しています。

私事で恐縮ですが、私の年代になっても専門医の subspecialty の筆記試験や口答試験を受け、そのための勉強や研修も受けています。医師を含め我々医療人は生涯を通じて常に学習・研鑽であり、生涯教育を怠っている者は、患者さんに対して不誠実かつ医療人としての資格がないということを銘記すべきと考えます。

看護の質の向上を目指して 看護職員増員活動中!!

副看護部長 佐藤 とも子

例年、看護師の人員確保は看護部の最優先課題として位置づけ、夜勤体制を 2 人から 3 人以上にすることを念頭に置く「増員 5 年計画」を策定し、関係部署への働きかけを行ってきた。その結果、徐々にではあるが、常勤看護師数でみると平成 14 年 7 月の 346 人から平成 18 年 7 月の 384 人にまで増員することができた。しかし、平均在院日数の短縮、病床稼働率の上昇、外来患者及び救急患者の増加、手術件数の増加、NICU の増床など、診療実績の上昇と連動して入退院ケア、周手術期看護ケア、外来処置ケアなどの看護業務が増大し、また、救急患者の時間外入院の増加に伴う夜間業務の変化、救急体制強化のための増員配置や各種専任看護師の配置など、看護を取り巻く状況が急変してきている。加えて、今年 4 月の診療報酬の改正に伴う一般病棟 10 : 1 の看護基準の取得による病棟看護師の確保のため、新聞への募集広告の掲載やハローワーク、ナースバンクへの募集活動を展開するとともに、退職者への勧誘や知人を介して本院への就職を依頼するなど、看護師の確保に積極的に取り組んでいる。勤務時間には午前・午後の 4 時間制、6 時間制など多様性を取り入れ、その採用者を外来に配置することで病棟から外来への協力体制の人数を抑えるなど、病棟看護師の人員確保に努めている。

現在、夜勤者を 3 人以上配置することで夜間看護を手厚くし、また、入院患者の退院後の自立に向けた支援をより充実させるため、一般病棟 7 : 1 看護基準の取得を目指しており、看護師のさらなる獲得に向けて活動を展開している。具体には、募集案内を刷新し全国の看護系大学を始めとする看護師養成機関 187 校に送付するとともに、本学のホームページ

にも掲載している。学外活動では、訪問する学校数を昨年より増やし(37校)、訪問の際には当校出身の看護師を伴うとともに、先輩看護師のメッセージを持参するなど在職者の協力の下に募集キャンペーンを展開し、また、他大学で開催される就職説明会には、事務職員とともにくまなく参加している。学内活動では、本学の看護学科学生を対象とした就職説明会、実習では見えない看護職の業務を体験してもらう「病棟体験」や本院を知ってもらう「病院見学会」などを開催する一方、全職員には、知り合いの看護師に本院への就職について「声かけ」を依頼するなど戦略的に募集活動を展開している。

看護部では以上のような活動に止まらず、今年度の看護部行動目標に「働く意欲を持ちつづけられる環境を作る」を掲げ、働きやすい環境づくりにも取り組んでいる。業務の見直しはもとより、看護助手及び病棟クラークの増員による周辺業務の軽減、夏季休暇の取得期間の延長、長期研修への奨学金制度の導入、非常勤から常勤への雇用形態の移行、時間外勤務の縮減、看護外来の設置などの改善を図ってきた。現在は、看護職員全員に実施したアンケート調査の結果を基に、改善策の立案、研修会・講演会の時間短縮、精神的支援看護師の配置などについて検討中である。

今後は、職場環境の改善及び看護職の募集活動を継続しつつ、看護部の理念である「信頼される看護サービスの提供、創造性を持つ看護職の育成、他部門と協力して病院運営に参画する」に基づく看護師の配置及び教育計画の策定について検討を予定している。

平成 14 年と平成 18 年の比較 (平均在院日数 ~ 1 日平均外来患者数は 13 年度、17 年度の実績)

	看護職員数 (7月1日現在)		病棟単位	3人夜勤 NS	平均在院日数	病床稼働率	1日平均外来患者数	救急患者数	手術件数	分娩件数
	常勤	非常勤								
平成 14 年	346	11	16	4	27.8	85.11	1042.7	3219	3801	219
平成 18 年	384	23	17	6	19.9	89.60	1241.3	5904	5184	320

文部科学省結城事務次官が本院を視察

結城章夫文部科学事務次官が、平成 18 年 8 月 18 日に本学を視察に訪れました。学長室にて八竹直学長が歓迎の挨拶でお迎えした後、早速石川睦男病院長と上田順子看護部長(副病院長)が病院の各施設を案内しました。

最初に訪れた周産母子センターでは、藤枝憲二センター長(小児科学教授)が、昨年 WHO(世界保健機構)・ユニセフから認定された「赤ちゃんにやさしい病院」についての説明をするとともに、NICU(新生児集中治療室)を案内しました。

続いて、集中治療部では、郷一知部長(救急医学教授)が、プライバシーに配慮し全個室となった病室を案内し、最新の患者モニタリングシステムについて説明しました。

その後、多目的に使用されている外来玄関ホール、臓器別外来受付、外来診療室などを見学した後、遠隔医療センターを訪問されました。

遠隔医療センターでは、吉田晃敏センター長(眼科学教授)が、映像を用いながら遠隔医療の歴史・今後の展望、アジアブロードバンドを使用した 3 次

元ハイビジョン方式による立体映像の伝送実験及び通信衛星を用いた遠隔医療実験の様子などについて説明しました。

最後に、外来診療棟小児科の小児用プレイルームにて遊ぶ子供達を見学し、限られた時間でしたが、精力的に各施設を回り、本学での視察を終えられました。

なお、この視察には、丸山洋司大臣官房総務課課長補佐が同行されました。(総務課)



石川病院長と上田看護部長の案内により院内を視察する結城事務次官



看護師になって

Fresh
Voice

8階西病棟 看護師 原 谷 俊 治

人には皆、「心」があります。心があるからこそ、楽しい、嬉しい、辛い、悲しいといった感情を持ち、その「心」が健康に大きな影響を与えています。たとえ不治の病を抱えていたとしても、自分のやりたいことを見つけ、生き生きと生活することができれば、苦しみも軽減し、豊かな生活を送ることができます。逆に、健康な人でも「心」のバランスが崩れれば、人生の質は著しく低下し、実際に免疫力も低下するといわれています。「心が健康であること」、それが私の中で何よりも重要なことであり、「心」に関わっていける職業に就きたいと思い、看護師になりました。

働き始めて4ヶ月、毎日の生活をこなすことで精一杯の日々ですが、少しずつ職場の雰囲気慣れ、

患者さんや先輩方との距離も縮まっていく中で仕事を続けていけるという自信がついてきた気がします。できることや任せられる仕事が多くなる一方で、求められる能力や課題、責任も大きくなり、自分のミスが患者さんに多大なる不利益を与えてしまうのではと処置の一つ一つに緊張の連続ですが、周りの先輩が心配な処置をみてくれたり、助言してくれる、安心して学べる環境を作り出してくれているので、一喜一憂ながらも毎日がんばろうという気持ちで働くことができます。

まだまだ、やりがいや自分の道を見つけることはできていませんが、今年1年間で技術やマニュアルをしっかり身につけて、自己の目標に向かって頑張っていきたいと思います。



看護師になって

Fresh
Voice

6階西病棟 看護師 西 島 しおり

看護師になって早5ヶ月が経ちました。病棟勤務や社会人としての生活にだいぶ慣れてきたところです。看護師になり私が実感したことは、学生時代とは違い、自分の1つ1つの行動に対する責任が重いと感じました。また、根拠を持って行動することが大切であるということを感じました。私にとってはまだ看護師1年生でありわからないことや自信のないことが沢山ありますが、患者さんにとっては先輩とかわらない看護師であるということに、辛く感じるがありました。その責任の重さや辛さに、押しつぶされそうになった時期もありますが、先輩方にフォローして頂いたり、患者さんの言葉や笑顔で励まされ、今まで乗り越えていくことができました。患者さんや先輩に指摘を受けたりし、自分の未熟さに日々落ちこむこともありますが、逆に患者さんに感謝されたり先輩に誉められたりすると、頑張ろうという気持ちが高まり看護師になってよかったと感じています。また、患者さんに「看護師さんが笑顔で部屋にくるととても明るい気持ちになり、病

気を抱えている私たちのパワーになるんだよ。」と言われ、看護師の笑顔の大切さを改めて感じました。

8月から患者さんを受け持つようになり、疾患の知識やアセスメント、プラン立案、評価などたくさん新しい課題が上がってきました。わからないことが沢山で自分にできるのだろうかと思いますが先輩方に指導していただきながら頑張っていこうと思います。これからも辛いことが沢山あると思いますが、それと同じくらい嬉しいことも待っていると思っています。沢山勉強をして看護師として成長していきたいと思います。これからもよろしくお願いたします。



光学医療診療部の開設

光学医療診療部部长 高 後 裕
同副部长 渡 二 郎

光学医療診療部は、平成18年4月から大学病院中央診療施設として開設されました。部長1名、副部长1名、医員3名(すべて内科学講座と併任)看護師3名、技師(洗浄員)1名、受付1名で構成され、光学医療機器に関する診療、管理および教育、研究を主な業務としています。これまで各内科で独自に行ってきた呼吸器・消化器内視鏡検査を中央化することで安全・効率的な検査の実施と、検査件数の増加による病院経営への貢献を目標としています。すでに、光学医療診療部・内視鏡部は全国の国立大学

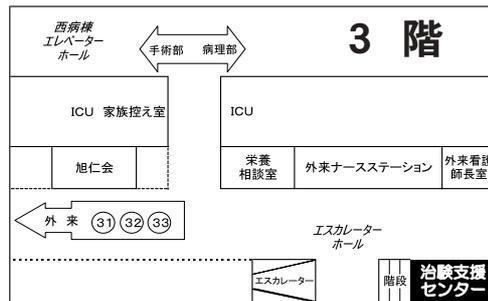
36校に設置されていますが、旭川医科大学での設置は、国立大学が法人化されてから初めてのものです。これを機会に、老朽化して問題となっていた内視鏡機器やX線透視装置が、すべて最新式の診断機器に更新されることになり、来院した患者様へ最先端の診断や治療を提供できるものと信じています。新しい診療部門としての発足ですが、30年の歴史と伝統をもつ本学内視鏡部門の経験を基盤に今後一層努力いたしますので、皆様のご協力をお願い致します。

治験支援センター

治験支援センター CRC
西 垣 夕 子

2階正面玄関を入ってすぐ右手に設置されていた治験支援センターが、4月から地図に示した通り病院3階エスカレーターホール横へ移動となりました。以前に比べ少しわかりにくい場所になったのですが、患者様対応、依頼者によるモニタリングのスペースが確保され、より良い環境が整いました。現在、治験支援センターは「病気克服のため新しい薬を待ち望んでいる患者様や次世代の人々へ優れた新薬を届けるため、臨床試験(治験)が適正に行われるようサポートする」という志のもと、治験コーディネーター(CRC)として薬剤師2名、看護師2名、臨床検査技師1名、CRCの業務サポートとして事務補助員2名で構成されています。その他にも治験薬

管理部門の薬剤師、契約関連の会計課担当者、医療費関連の医療支援課担当者とともに業務を行っています。それぞれの職種がその特性を生かし一つの治験がスムーズに進行するよう日々奮闘しております。ただいま進行中の治験は12科35プロトコルに上り、6月からは薬だけでなく医療機器の治験も始まりました。今後も外来・病棟などに様々なお願いに伺うことがあると思いますが、どうぞよろしくお願い致します。また、疑問・要望等がありましたらどんなことでも治験支援センターへ御連絡下さい。そして、新センターへお気軽に足を運んで下さい。



七夕がざり

8月7日(月)の七夕に向け、病院玄関ホールに七夕がざりが置かれ、訪れた患者さんたちの願い事が、色とりどりの短冊に書かれました。



【薬剤部】

新薬紹介 (48)

リポソーム封入型アムホテリシン B
(アムビゾーム点滴静注用50mg)

最適な薬物治療を実践する目的で、薬物の体内動態を精密に制御し、有効成分を必要な部位に、必要な時に、必要な量だけ作用させる薬物投与形態の総称をドラッグデリバリーシステム(薬物送達システム、DDS)という。

抗真菌薬であるアムホテリシン B (AMPH) は、40 年以上もの長期臨床使用にも関わらず、その強力な抗真菌活性は耐性を生じておらず、一部の真菌感染症では AMPH が唯一の治療薬である。しかし、AMPH はヒトの細胞膜に存在するコレステロールにも作用し、腎機能障害等の強い副作用をもたらすため、使い辛い医薬品であった。

リポソーム封入型 AMPH 製剤は、リポソームの脂質二重膜に AMPH を封入した構造を持つ。本剤は DDS の応用により、生体内では未変化のリポソ

ームのまま存在し、かつ肝臓や骨髄の細胞に比較的取り込まれにくいことにより血中滞在性が高まっている。血中や正常組織では遊離の AMPH をほとんど放出せず、副作用の低減が図られている。その一方で、真菌感染巣に到達したリポソームは、真菌細胞表層に結合し、真菌細胞の膜成分であるエルゴステロール合成を阻害することにより抗真菌効果を示す。

投与量は、従来の AMPH の静注用製剤(ファンギゾン注50mg)では、1 日総投与量が 1.5mg / kg / day を超えないようにし、3 ~ 6 時間かけて点滴静注する必要があった。リポソーム封入型の本剤は、通常 2.5mg / kg / day で、患者の症状に応じて 5 mg / kg / day まで増量が可能である。更に、クリプトコッカス髄膜炎では 6 mg / kg / day まで投与できる。投与速度も 2 時間程度の点滴静注が可能となっている。

問題点としては、薬価がファンギゾン注(1,065円)に比べて非常に高価(9,958円)であり、医療経済を考慮した利用が望まれる。従って、アゾール系抗真菌薬等が十分奏功するようなカンジダ感染症に対しては、他剤を第一選択薬として使用する必要がある。

(薬品情報室 大滝 康一)

輸血・細胞療法部門発④④

アルブミンの適正使用と
血液製剤の一元管理

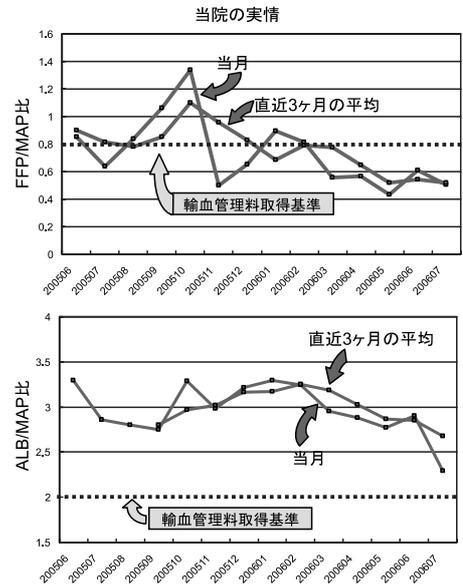
本年 4 月から輸血管理料が診療報酬点数表に収載された。昨年 9 月の病院ニュースで“輸血とインセンティブ”というタイトルで輸血管理料と FFP の適正使用の関係について触れたが、管理料取得の基準となる FFP/MAP 比 (FFP の使用量を MAP の使用量で除した値) は最終的に 0.8 未満と決まった。当院の FFP/MAP 比は 2000 年度から 1.73、1.84、1.09、1.06、1.09、0.86 と徐々に低下し、本年度に入り管理料取得基準となる 0.8 未満に達するようになった(グラフ参照)。各位のご理解とご協力に感謝申し上げます。

さて、昨年 9 月には予想されてなかったが、管理料取得基準にアルブミン製剤を輸血部門で一元管理することと、アルブミン製剤の使用量と赤血球濃厚液の使用量の比が 2 未満という条件が加わった。当院では 8 項目ある取得基準のうちこの 2 項目以外はすべて満たしており、インセンティブを生かすためには、今後 2 つの条件をクリアしなければならない

(グラフ参照) 輸血部門でのアルブミン製剤一元管理のためには、オーダリング改良などにある程度の投資を要するだろう。しかし、病院機能評価 Ver 5 には“輸

血・血液製剤とは血液・血漿・血小板・アルブミン製剤などを含む”と書かれていることから、血液製剤の一元管理体制構築は必須と考えられる。また、アルブミンの適正使用推進にも早急に取り組む必要がある。血液製剤の適正使用と一元管理体制構築にも格段のご理解とご協力をいただきたい。

(臨床検査・輸血部 紀野修一)





理学療法部だより～理学療法士就任挨拶～

理学療法士 紙 弥 生

8月1日より理学療法士として勤務させていただいております紙 弥生と申します。

このような大きな組織の中で仕事をすることも、理学療法士が3人という少人数のスタッフで仕事をすることも今回が初めてであり、毎日新しい経験をさせていただいています。

近年理学療法を含むリハビリテーション分野を取り巻く医療情勢が急速に変化し、私達理学療法士は患者様に対してプロフェッショナルとして何が出来

るのかということをお問われているように感じます。特に急性期の病院では限られた入院日数の中で、1人1人の患者様に必要なことを的確に判断し、効果的な理学療法を提供しなくてはならないのではないかと考えます。私も理学療法士として患者様に何が出来るのかということをお常に考え、1人でも多くの患者様が再び社会で快適に生活するためのお手伝いが出来るよう多くのことを吸収して頑張っていきたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

平成18年度 患者数等統計

区 分	外 来 患 者 数			一日平均外来患者数	院外処方箋発行率	紹介率	入院患者延数	一日平均入院患者数	稼働率	前年度稼働率	平均在院日数 (一般病床)
	初 診	再 診	延患者数								
4 月	人 1,390	人 24,582	人 25,972	人 1,298.6	% 69.39	% 60.72	人 16,171	人 539.0	% 89.54	% 89.43	日 18.32
5 月	1,464	24,944	26,408	1,320.4	69.40	54.78	15,991	515.8	85.69	88.02	18.76
6 月	1,541	25,563	27,104	1,232.0	69.79	56.33	15,968	532.3	88.42	92.08	17.89
計	4,395	75,089	79,484	1,283.7	69.53	57.28	48,130	529.0	87.88	89.84	18.32
同規模医科大学平均	4,709	55,266	59,975	967.1	83.42	51.46	47,140	518.2	85.26	85.91	19.87

稼働率は、承認病床数（602床）により算定している。

（経営企画課）

編集後記

私がまだ小さかった頃、チャンネル権は父親が持っていてテレビには時代劇ドラマや時代劇映画などの番組がよく映っていた。その頃は自分が観たい番組がみられず自分にとって時代劇は面白くないものであった。連続物の時代劇ドラマはいつも同じパターンで先が見え代わり映えがしない「ほら印籠が出てきた」などと思っていた。それが最近、時代劇が私のマイブーム(ちょっと古い?)になっている。とはいってもテレビではなく文庫本であるが。それまではSF物や推理小説を読むことが多かったが、読む本が無いときに、家内が読み終わった文庫本に手を出したのが始まりである。子供の頃は、時代背景が解らないから面白さも解らなかったが、少しは理解できるようになったからかも知れない。自分が気

になるせいか書店でも時代物（特に江戸を舞台とした）のコーナーが増えたように感じる。世の中も時代劇ブーム？

（編集委員 臨床検査・輸血部 武田 悟）

時事ニュース

- 6 / 21 院内感染対策委員会講演会
- 7 / 12、25 医療安全管理部講演会
- 7 / 24 全国国立大学病院手術部会議
北海道・東北地区ブロック会議
(本学当番)
- 7 / 25 スタットコール専用回線
(TEL3333)運用開始